

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日：2012年10月10日

所属：工学資源学部 生命化学科 1年

氏名：佐藤晶子

派遣先大学名(国)：ビクトリア大学(カナダ)

在籍身分：学生

派遣期間：1か月

渡航年月日：2012.9.3

帰国年月日：2012.9.30

○派遣先大学における授業等の履修状況

(履修した講義名, 講義の履修期間, 週当たりの講義時間, 修得単位数などを確認できる成績表(写)等の添付)

- ・ビクトリア大学 語学研修
- ・授業日数)15日間
- ・週当たりの講義時間)約19時間

【以下について, 様式任意 1,000字程度】

○研究・学習概要及び今後の勉強計画

授業はすべて英語で行われ、生徒も教室内では英語だけを話すように決められていました。言語の壁はそれほど大きいということだと思います。

授業の内容は毎日バリエーションに富んでいましたが、主にディスカッション形式でした。ディスカッションでは、宿題に関係した事柄や、CM、歌詞などから与えられた様々な題目について、それぞれグループごとに話し合いをしました。そのなかで、マリファナ所持についてや尊厳死、死刑は存在すべきか、という題目についてはディスカッション後、大学の敷地内を歩き回り、カナダ人へのアンケート調査も行いました。ほかにも、グループごとに劇をしたり、他のクラスメイトの前で架空の商品の紹介をして売りつける…など、どれもユニークな授業内容でとても楽しかったです。それと同時に、どの授業も一人ひとりの自主性や積極性を要求するものでもありました。また、クラス内には8人の日本人のほかにも、中国、ブラジル、コロンビアから来たクラスメイトもいて、授業中以外にも様々な場面でお互いの文化について知り合うことができとても貴重な経験になりました。

○生活面について

初めてのホームステイということで初めの頃は、自分はどうすればいいのか、何をすべきか…など、頭を巡らせていました。英語だけの生活で、このまま一か月間過ごしていけるかと不安になったときもありました。しかし、不安がらずに、もっとオープンになろうと心がけるようになってからは、今まで見えていなかったホストファミリーの素の部分がよく見えてきて、親近感が湧くと同時に心配しすぎていた自分にも気が付きました。それからは当初の不安感も消え、毎日楽しく、日本とはまた一味違う日常生活を送りました。

週末はそれぞれが忙しく、思っていたより家族で外出することは少なかったのですが、一度ホストブラザーがアイスホッケーの試合に出るということで、夜遅くにアイスリンクに向かい、試合を観ることができました。アイスホッケーの試合を生で見るとは今まで一度もなかったのも、うれしかったです。

金曜日の夜は、家族で薄暗い部屋のなか、映画を見ながら夕食を食べたり、夜空の下でバーベキューをしたりなど、とても素敵な時間を過ごしました。バーベキューのあと、ホストマザーが私に夜空を見せようと、家の電気を消してくれました。その時に見た、満天の星空が今でも忘れることができません。今まで見たことがないくらい、夜空一面に星が輝いていました。残念ながら写真には映らなかったのですが、とてもいい思い出のひとつです。

ホストファミリーは皆、本当に優しく、とても親切でした。いつか、またビクトリアを訪れる機会があったら、ぜひもう一度お会いしたいです。

○その他留学全般にわたる感想

今回の留学では本当にさまざまな出来事がありました。楽しかった出来事は書ききれませんが、大変だったことを書くとすれば、それは何度も道に迷ったことです。カナダではバス停に名前がなく、景色や、ストリートの名前から降りる場所を推測しなければなりません。慣れてくると問題ないのですが、初めのうちは、違う経路で家に向かうバスに乗るたびに早く降りてしまったり、逆に乗り過ぎてしまったり、と本当に苦労しました。しかしそのたび、人に道を尋ねると、どの人も本当に親切で、時には数十分間も立ち止まって地図を見ながら道を教えてくれたり、途中までついてきてくれる方もいました。カナダの人の温かさには何度も感動しました。

ビクトリアでの学習や生活を通して、もっと英語が話せるようになりたい、と英語でうまく意思疎通が出来ないたびに、そう感じました。この気持ちをこれからも忘れず、モチベーションを保って次へのステップにつなげていきたいと思います。

そして、自然も文化も人も魅力的なカナダに、機会があればぜひもう一度訪れたいです。